

◎注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月30日（月）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		9月27日現在	10月の予想 (月末値)	
USD	ドル・円 (円)	143.33	139.0 ~ 147.0	143.0
	日米金融政策の次の一手を睨みながら、レンジ内で一進一退の展開			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.114	1.10 ~ 1.14	1.12
	ユーロ・円 (円)	159.69	154.0 ~ 166.0	160.2
	FRB大幅利下げ観測を背景に、ユーロは引き続き堅調に推移か			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.338	1.29 ~ 1.36	1.33
	ポンド・円 (円)	191.79	183.0 ~ 197.0	190.2
	日英金融政策を意識しながら上下に振れやすい展開を見込む			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	98.60	95.0 ~ 103.0	99.0
	NZドル・円 (円)	90.36	88.0 ~ 94.0	91.0
	豪ドル・NZドルは堅調も引き続きレンジ内で推移か			
株式 相場	日経平均 (円)	39,830	33,000 ~ 40,000	38,500
	10月に衆議院解散の予定。自民党圧勝なら株は下落リスク			
	NYダウ (ドル)	42,175	40,000 ~ 45,000	42,500
長期 金利	材料不足から横ばい圏での推移を見込む			
	日本 (%)	0.805	0.80 ~ 1.10	1.000
	FRBの緩和局面開始の影響も受けるが日銀の正常化見通しにより金利上昇			
	米国 (%)	3.783	3.50 ~ 4.00	3.750
	金利は横ばい圏での推移を見込む			

◆ 今月の注目ポイント

日米金融政策の次の一手を探る

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	○	【4日 米9月雇用統計／17日 米9月小売売上高】FRBは9月FOMCにて50bpの利下げを決定し緩和局面がスタートした。パウエルFRB議長は、景気のソフトランディングを担保するための「予防的な」利下げであると説明し、また50bpの利下げが今後の引下げの基本的なペースとはならないとも発言した。市場では年内あと2回のFOMCにて75bpの利下げを織り込んでいるが、雇用や消費などの経済指標次第では、ボラティリティが高まる可能性があり要注意となる。
金融政策	◎	【30-31日 日銀金融政策決定会合】9月会合は予想通り金融政策の現状維持を決定した。植田総裁は、物価の上振れリスクは「相応に低下した」、今後の追加利上げの判断に「時間的な余裕はある」と述べた一方で、経済・物価の見通しが実現していけば「政策金利を引き上げ、金融緩和の度合を調整していく」として、引き続きデータ次第の姿勢を継続。自民党新総裁がややタカ派姿勢と見られる石破氏となったこともあり、注目度の高い決定会合となる。

◆ アジア通貨見通し

	9月27日現在	10月の予想 (月末値)	
人民元・円	20.36	19.00 ~ 21.00	20.00
バーツ・円	4.394	4.10 ~ 4.50	4.30
ルピア・円	0.940	0.92 ~ 0.97	0.95

◆ 今月の重要日程

1日（火）日 7-9月期日銀短観
1日（火）米 9月ISM製造業
3日（木）米 9月ISM非製造業
4日（金）米 9月雇用統計
8日（火）日 8月毎月勤労統計
9日（水）米 FOMC議事要旨

10日（木）米 9月CPI
17日（木）欧 ECB理事会
17日（木）米 9月小売売上高
18日（金）日 9月全国CPI
31日（木）日 日銀金融政策決定会合
31日（木）米 9月PCEコアデフレーター

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

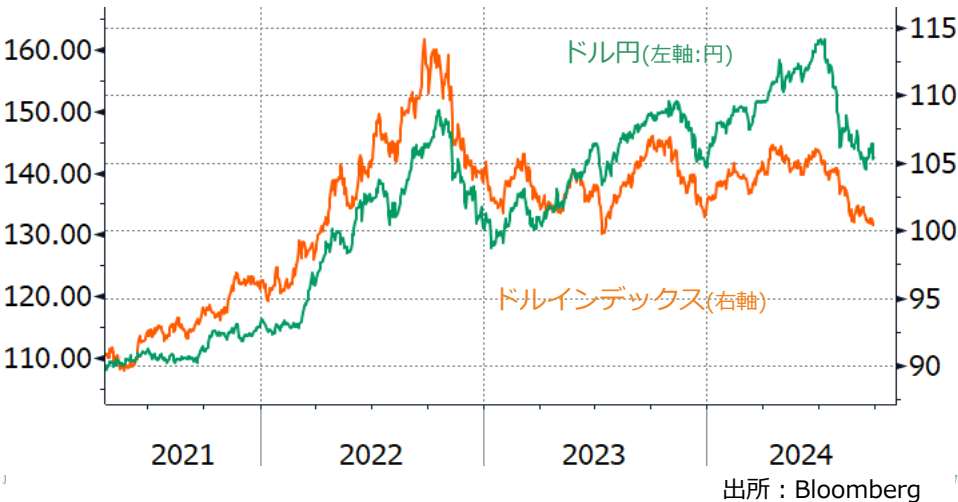
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ド ル 円



米ドル円

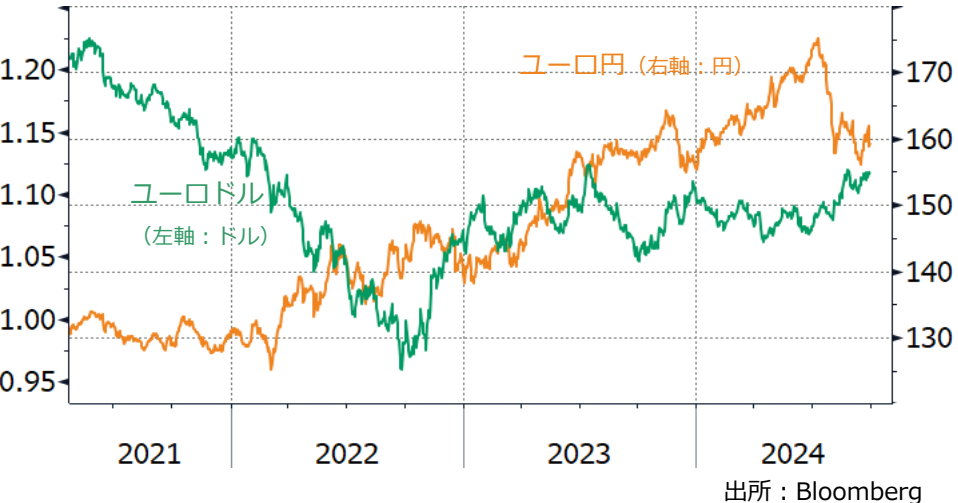
139.00 – 147.00円

日米金融政策の次の一手を睨みながら、レンジ内で一進一退の展開を見込む

9月のドル円相場は、一部の事前報道を受けて18日FOMCでの50bpの大幅利下げ観測が強まり、ドル円は一時140円割れに下落。FOMCで実際に大幅利下げが決まり、今後は会合ごとに利下げ時期や幅を決定していくと、パウエルFRB議長が市場の過度な利下げ期待をけん制すると、ドル円は反転し、月末に向けて一時146円台を回復する場面が見られたが、自民党新総裁に石破氏が決まると一転して円高が進み、142円台まで下落した。

10月のドル円は、レンジ内で一進一退の展開を見込む。FRBは大幅利下げで緩和局面入りしたものの、景気のソフトランディングを担保するための予防的な利下げの意味合いが強い。今後はデータを確認しながら緩やかなペースでの利下げが想定され、金利先物市場の過度な利下げ織り込みは次のFOMCに向けて修正される可能性が高いと思われ、目先はドル買戻しが優勢となる公算が大きい。一方、自民党の新総裁に財政・金融政策面でややタカ派姿勢を示している石破氏が選任されたことは、日銀による早期追加利上げの思惑から円買い材料となろう。目先のドル円は、日米金融政策の次の一手を睨みながら、レンジ内で一進一退の展開を見込む。

ユ ー ロ



ユーロドル

1.10 – 1.14ドル

ユーロ円

154.00 – 166.00円

FRB大幅利下げ観測を背景に、ユーロは引き続き堅調に推移か

9月のユーロは、対ドルでは堅調に推移した。12日のECB会合では政策金利の引き下げが決定されたものの、今後の追加利下げに関する言及は相変わらずなかったことからユーロ買いが優勢となった。また、対円ではECB会合後に円安が進行していたが、自民総裁選で石破氏が勝利すると円買いが進み、ユーロ円は再び160円割れに下落した。

10月のユーロは、基本的には堅調に推移しそうだ。ECBによる10月利下げを市場は半分程度織り込んでいるが、これまでのECBのスタンスや高官らの発言から勘案すると10月利下げを敢行する蓋然性は低く、ユーロが買われやすい地合いが続くそう。加えて、FRBによる11月の利下げ幅が50bpになるとの観測が高まっていることもユーロ買いの材料となるだろう。ただし、製造業を中心に景況感が一向に改善しないことから景気への懸念が燦っており、ハードデータの下振れにつながるようだと利下げパスの加速からユーロ売りとなる可能性がある。

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

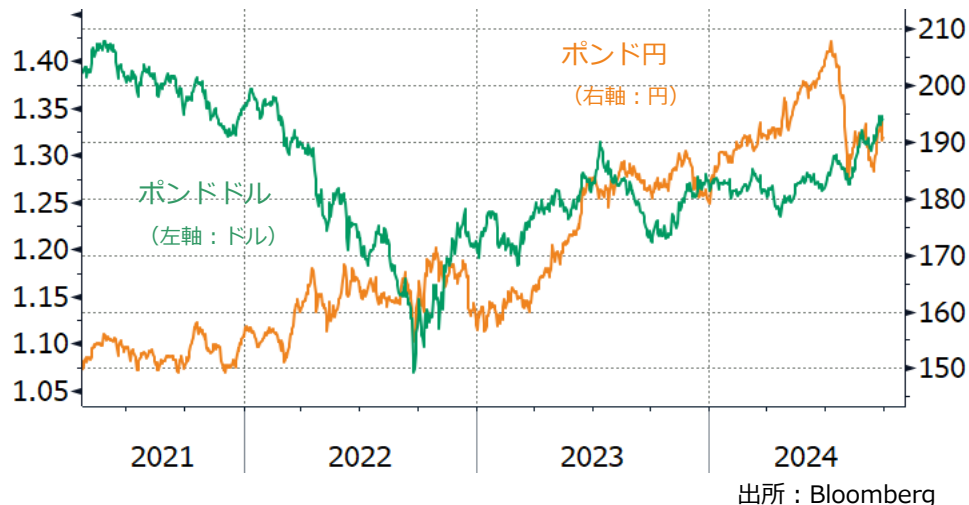
2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

1.29 – 1.36ドル

ポンド円

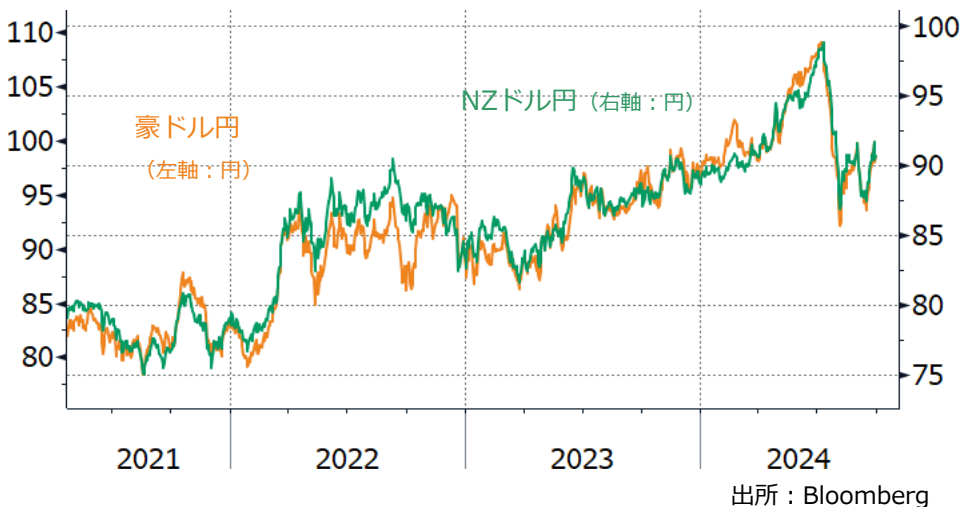
183.00 – 197.00円

日英金融政策を意識しながら上下に振れやすい展開を見込む

9月のポンド円は、前半こそポンド売りが進んだものの、19日に英中銀が政策金利の据え置きを決定、ベイリー英中銀総裁が「利下げが早すぎず、大幅過ぎないよう注意する必要がある」、「利下げは徐々に時間をかけて行う」と市場の利下げ期待をけん制すると、反転してポンド買いが進行し、ポンド円は月末に向けて一時195円台を回復。しかし、石破氏の自民党総裁選勝利が伝わると、ドル円の円高進行とともに、ポンド円も190円付近へ急反落した。

10月のポンド円は、日英金融政策を意識しながら上下に振れやすい展開を見込む。インフレはサービスインフレの高止まりが気掛かりなものの、総合指数は2.2%と目標の2%をやや上回る水準で落ち着いてきており、年内の追加利下げが予想されている。一方、日銀は賃金と物価が順調に推移していることから遅くとも来年1月までに追加利上げに踏み切ると思われる。日英ともに次の金融政策変更のタイミングは今後のデータ次第であり、ポンド円は重要指標を都度確認しながら、一喜一憂する上下に振れやすい展開となろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

95.00 – 103.00円

NZドル円

88.00 – 94.00円

豪ドル・NZドルは堅調も引き続きレンジ内で推移か

9月のオセアニア通貨は、上旬から中旬にかけては米国の利下げ幅が25bpにとどまるとの見方が強まったことや米中の景気懸念を背景とした資源価格下落などによって、軟調に推移した。下旬にかけては、米FRBによる50bpの利下げが決定されたことやソフトランディング期待を背景とした米国株高などを受けて上昇に転じ、値を戻している。

10月のオセアニア通貨は引き続き高値圏のレンジ内での推移を見込む。対ドルでは、米国が利下げ局面入りしたものの先行きは緩やかな利下げパスになるとの観測が強まっていることから、一方的に上値を追う展開にはなりにくいとみられる。また、強いインフレや雇用を根拠に豪中銀はタカ派姿勢を維持しているものの、豪州国内の景気が崩れ始めていることからハト派転換による通貨安リスクを内包している。対円では、市場の混乱が落ち着けば日銀は淡々と追加利上げを行うとの見方が重しとなるが、中国の追加金融緩和発表を受けた中国景気回復への期待から底堅く推移か。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

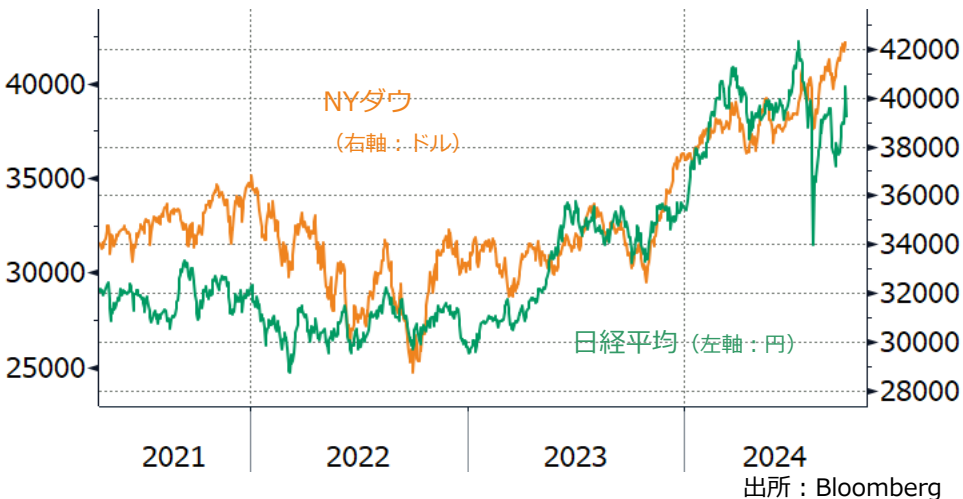
2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

33,000 – 40,000円

10月に衆議院解散の予定。自民党圧勝なら株は下落リスク

9月末に3月決算企業の間配当取りの動きがあったことから、月初は軟調に推移しよう。27日に自民党の新総裁に緊縮財政派の石破氏が就任したことも警戒売りを促そう。その後は、月末の衆議院解散をにらみ、一進一退の展開を想定。仮に自民党が圧勝した場合には、石破氏の掲げる緊縮財政的な政策や金融所得課税の実現可能性を現実のリスクとして織り込む動きが加速し、株は大きく下落する可能性がある。

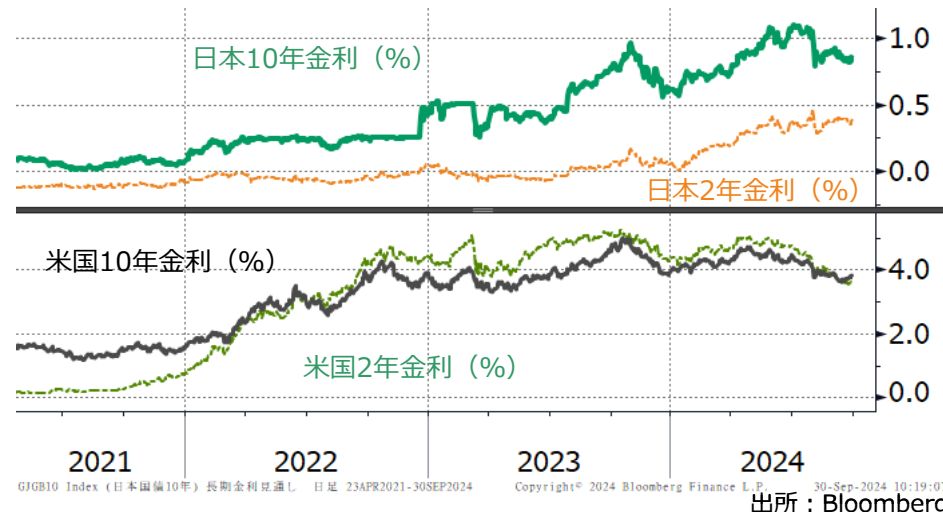
NYダウ

40,000 – 45,000ドル

材料不足から横ばい圏での推移を見込む

今月はFOMCがない他、来月に米大統領選を控えていることもあり、積極的な売買は控えられ可能性が高い。特に、トランプ氏、ハリス氏の両候補の政策によって恩恵を受けるセクター、逆風を受けるセクターが大きく異なるため、大統領選の結果を見極めたいとの思惑が例年以上に強まる可能性がある。米国株は横ばい圏での推移を見込む。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

0.80 – 1.10%

日銀の政策金利の正常化見通しにより金利は上昇

FRBの金融緩和局面の開始に伴う利下げ幅の不確実性によって、落ち着きを取り戻しつつあった日本の金融市場もある程度の影響を受けた。しかし、9月に行われた日銀会合では、8月の金融市場の混乱は実体経済には大きな影響を及ぼしていないとの日銀の判断が示唆され、景気が見通しどおりであれば利上げを行っていく姿勢が維持された。米国の利下げの影響を受けつつも、日銀の金融政策の正常化姿勢によって、日本国債の金利は緩やかに上昇していくとみている。

米国債10年

3.50 – 4.00%

金利は横ばい圏での推移を見込む

9月FOMCでは、50bpの大幅な利下げが決定されたが、市場が事前に想定していたペースでは利下げが行われない可能性が高まり、FOMCを経て、金利はやや上昇した。8月以降、月初に集中する雇用関連指標で大きくマーケットが動いていたが、FRBが利下げに転じ、ソフトランディング期待が高まったことで、緩やかな悪化に留まる限りは、リスクオフ方向にマーケットが動いたとしても、そのボラティリティは低下する公算が大きい。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

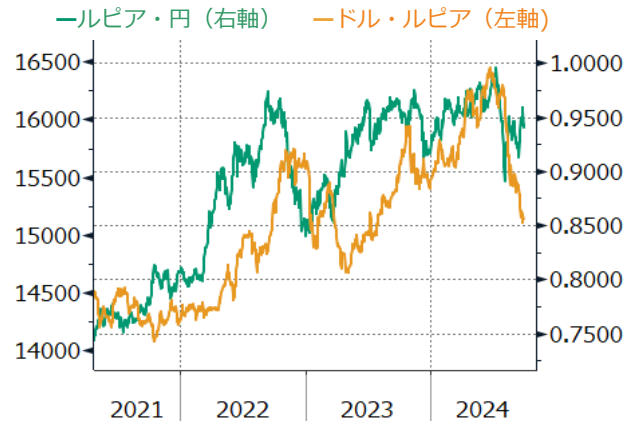
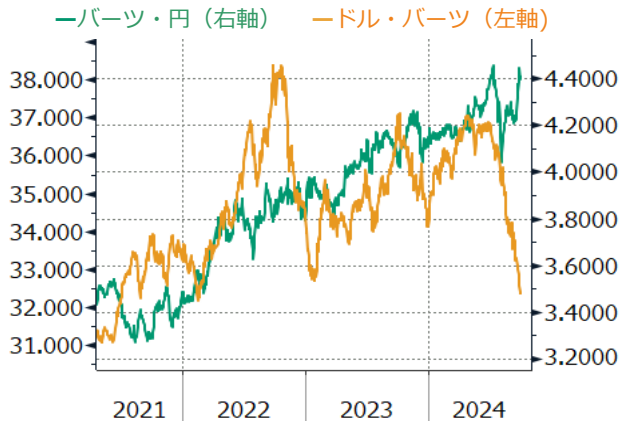
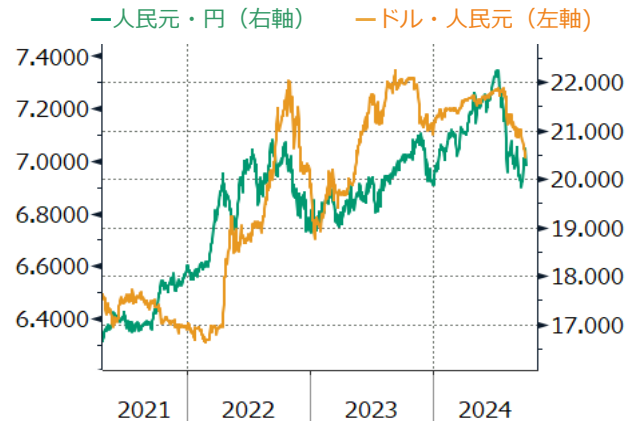
◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		10月の予想	見通し
中国	人民元/円	19.00 ～ 21.00	米国の緩和局面の開始によりドル人民元も持続的な下落局面入りか 9月には、中国人民銀行が預金準備率を引き下げたことによって、中国当局が通貨価値の維持よりも景気対策に傾倒していることが改めて示唆された。しかし、米国でもFOMCで50bpと大幅な利下げが決定され、公表された政策金利見通しでは年内の追加利下げを含めて継続的な緩和局面の開始が明示された。金融緩和の余地が米国の方が大きいことから、ドル人民元は持続的な下落局面となっていくと予想される。
	ドル/人民元	6.90 ～ 7.10	
タイ	バーツ/円	4.10～4.50	新首相への期待や中国景気刺激策等からバーツ高が進行も悪影響を懸念する声が高まる 9月のドル/バーツは、新首相への期待、FRBの利下げ、中国の景気刺激策への期待等でバーツ高が進行したが、タイ経済のけん引役である輸出や観光に悪影響を及ぼすとの懸念の声が上がっている。これまでも、政府側は景気刺激のための利下げを要求してきたが、FRBが利下げに転じたことで、実現可能性が高まってきた。強弱材料が入り混じり、バーツ高進行は一服しよう。
	ドル/バーツ	30.5～34.0	
インド	100ルピア/円	0.92～0.97	米利下げ局面入りでルピア高傾向続く、対円でも一旦は下げ止まりか インドネシア中銀は3年半ぶりに利下げも、米FRBによる利下げ局面入りを受けルピア高が進行している。日銀は追加利上げ自体には前向きなもの、9月会合での記者会見を受け直近の利上げ実施観測はやや後退しており、対円でもルピアは下げ止まりか。
	ドル/ルピア	14,700～15,500	



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年	2025年			ポイント
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	
ドル円	レンジ	130～150	130～150	130-150	125-145	FRB利下げサイクル入りと日銀による追加利上げ観測を背景にドル円は上値の重い展開が継続。米大統領選および議会選挙の結果と新政権の政策に留意。
	期末値	140	140	140	135	
ユーロドル	レンジ	1.05 ～ 1.15	1.07 ～ 1.17	1.08 ～ 1.18	1.09 ～ 1.19	米国が利下げ局面入りして独米金利差の縮小観測が高まり、比較的緩やかな利下げパスが想定されるユーロは対ドルで堅調な動きを見せそう。ただし、景気の下振れによるユーロ安リスクや、対円では日銀の利上げパス次第で円高に振れやすいことには留意が必要。
	期末値	1.10	1.12	1.13	1.14	
ユーロ円	レンジ	145 ～ 170	145 ～ 165	150 ～ 170	145 ～ 165	FRB利下げサイクル入りを背景に目先はドル安が進行しやすいが、過度な利下げ期待は徐々に剥落する公算。年末以降は英中銀の追加利下げ、日銀の追加利上げが意識されることから、ポンド円は徐々に上値が重くなる展開を見込む。
	期末値	154	157	158	154	
ポンドドル	レンジ	1.27～1.37	1.25～1.35	1.23～1.33	1.21～1.31	中国当局は通貨価値防衛から景気浮揚へと軸足を移しており、人民元安を容認する姿勢を示している。金融緩和を含めた景気支援策や不動産市場支援策による中国経済の回復は元の上昇要因だが、FRBが緩和局面を開始したことから、ドル人民元も持続的に下落していく
	期末値	1.32	1.30	1.28	1.26	
ポンド円	レンジ	175～200	172～192	169～189	160～180	豪中銀の利下げ開始は来年にずれ込む見通し。中国の金融緩和が功を奏して景況感が回復すれば、次第に底堅い動きとなりそう。
	期末値	185	182	179	170	
ドル人民元	レンジ	7.00 ～ 7.20	6.90 ～ 7.10	6.80 ～ 7.00	6.70 ～ 6.90	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	7.10	7.00	6.90	6.80	
人民元円	レンジ	18.50 ～ 21.50	18.50 ～ 21.00	19.50 ～ 21.50	18.50 ～ 21.50	
	期末値	19.72	20.00	20.29	19.85	
豪ドル円	レンジ	86.00～102.00	88.00～104.00	88.00～104.00	87.00～103.00	
	期末値	94.00	96.00	96.00	95.00	
タイバーツ円	レンジ	4.00～5.00	4.10～5.10	4.10～5.10	4.00～5.00	
	期末値	4.50	4.60	4.60	4.50	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
10/1(火)	7-9月期日銀短観	9月ISM製造業景況指数		10/14(月)	(スポーツの日)	(コロンブス記念日)	
	8月労働力調査			10/15(火)		10月NY連銀製造業景気指数	(独) 10月ZEW景気指数
10/2(水)		9月ADP雇用統計		10/16(水)	8月機械受注		
10/3(木)	10年債入札	8月製造業受注		10/17(木)	9月貿易統計	10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(欧) ECB定例理事会
		9月ISM非製造業景況指数				9月小売売上高	
10/4(金)		9月雇用統計		10/18(金)	9月消費者物価指数	9月住宅着工・許可件数	(中) 7-9月期GDP
10/7(月)							(中) 9月生産・小売・投資
10/8(火)	30年債入札	3年債入札		10/21(月)			
	8月家計調査	8月貿易収支		10/22(火)			
	8月毎月勤労統計(速報)			10/23(水)		20年債入札	
	9月景気ウォッチャー調査					9月中古住宅販売	
10/9(水)		10年債入札		10/24(木)	20年債入札	9月新築住宅販売	(欧) 10月PMI(速報値)
		FOMC議事要旨		10/25(金)			(独) 10月IFO企業景況感指数
10/10(木)	5年債入札	30年債入札		10/28(月)		2年債入札	
	9月企業物価指数	9月CPI				5年債入札	
10/11(金)		9月PPI		10/29(火)	2年債入札	10月消費者信頼感指数	
10/13(日)			(中) 9月CPI		9月労働力調査	7年債入札	
			(中) 9月貿易統計	10/30(水)		10月ADP雇用統計	
						7-9月期GDP(速報値)	
				10/31(木)	9月鉱工業生産	9月個人所得・消費支出	(中) 10月PMI
					9月住宅着工件数		
					植田日銀総裁定例会見		



◎注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/6～9/12】

◎スマホ2 強対決、華為が優勢

中国スマートフォン市場の覇権を争う華為科技（ファーウェイ）と米アップルがほぼ同時に新製品を発表し、中国メディアは2社の新製品の比較をテーマにした報道を盛んに行っている。ファーウェイは折り畳み製品を発表し、価格を1万9,999元～2万3,999元（約39万8,000～47万7,000円）と高く設定したにもかかわらず、数日で400万台以上の予約を受け付けた。少なくとも現時点での話題性は、アップルが発表した「iPhone（アイフォン）」の新製品をしのぐ。新製品の販売がこのまま好調に推移すれば、ファーウェイの復活が一層鮮明化する。

【9/13～9/19】

◎8月の住宅価格、過去9年で最大の下げ幅

中国国家统计局が14日発表した8月の新築住宅価格は主要70都市で前年同月比5.7%下落し、2015年5月以来最大の下げ幅となった。前月比で下落したのは67都市、上昇したのは2都市、横ばいは1都市だった。住宅購入を促す支援策や、地方政府・国有企業による在庫物件買取など取り組みを打ち出される中でも、価格の向上は見られない。国家统计局が同時に発表した8月の経済指標では、不動産セクター以外でも中国の経済失速を示す兆しが出ている。投資銀行の関係者は政府が掲げる経済の年間成長目標の達成には追加刺激策が必要だと指摘。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8
実質GDP成長率	%	-	-	5.2	-	-	5.3	-	-	4.7	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6
都市部調査失業率	%	5.0	5.0	5.1	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.2	-
輸出額	10億ドル	274.2	292.6	303.3	306.5	219.5	278.6	291.6	302.1	307.6	300.6	308.6
輸入額	10億ドル	218.3	223.6	228.5	222.4	180.9	221.0	219.9	219.7	208.7	215.9	217.6
経常収支	100万ドル	-	-	252,987	-	-	39,213	-	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,101.2	3,171.8	3,238.0	3,219.3	3,225.8	3,245.7	3,200.8	3,232.0	3,222.4	3,256.4	3,288.2
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.31	7.22	7.14	7.17	7.19	7.20	7.24	7.23	7.25	7.26	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国、外食業界も低価格競争激化

中国近年、「価格競争」はよく見られる用語となっています。2022年から始まったコーヒー、茶飲料、EC販売の価格競争に続き、今年に入り電気自動車が話題になり、最近では外食業界でも値下げ競争が激化しています。

調査によると、中国で事業を展開する火鍋ブランドの約6割が、2024年1-6月に価格を引き下げました。一部の火鍋チェーンは「10年前の価格に回帰」と称し、大規模な値下げキャンペーンを実施しました。火鍋だけではなく、他の中華料理の有名ブランドも値下げを行いました。

海外ブランドも追随しています。ハンバーガー業界ではバーガーキングが8月から9.9元のハンバーガーの販売を始めました。これはバーガーキングの中国でのハンバーガー価格として過去最低です。ピザ業界では、ピザハットが5月に新業態店舗をオープンし、商品の大部分を10-20元の低水準に抑える施策を打ち出しました。

こうした状況下では、各社が利幅を削りながら競争を繰り広げることになり、飲食業の業績を圧迫させる要因となっています。台湾から世界に展開している点心料理チェーン、「鼎泰豊」が8月26日に中国本土で14店舗を閉鎖すると発表しました。

味千ラーメンは24年上半期業績予告で、純損益が2,000万元（約4億1,000万円）の赤字に転落するとの見通しを示しました。味千ラーメンのほか、麺専門店チェーンは総じて不振が続いています。調査では、2024年1-5月に閉鎖・廃業に追い込まれた麺専門店は2万9,000店に上がりました。中国全体では2024年1-6月に100万店の飲食店が閉鎖・廃業しています。

経済情勢の低迷で、消費者が出費にますます慎重になっているのが原因の一つですが、情報の透明化により消費者は飲食商品に新たな認識を持ち、高価格帯の商品や過度な宣伝手段に影響を受けないのも一因だと指摘されています。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆ 2024年7月の国内経済、前月から改善

タイ中央銀行の2024年7月の経済報告書によると、タイ経済は輸出拡大に伴う製造業の回復や、外国人観光客による観光収入の増加を受け、前月から改善した。鉱工業生産指数は前月同月比1.8%上昇した。自動車、HDD、ゴム・プラスチック製品等の生産が伸びたが、石油関連製品、セメント等の生産は減少した。民間投資指数は同3.4%増と前月の同2.3%減から増加した。資本財の輸入が増えた他、機械や設備の国内販売も伸びた。他方、建設資材の販売は減った。民間消費指数は同0.2%増で、前月と横ばい。政府支出について、経常支出は拡大した一方、政府系企業の投資は縮小した。

◆ 2024年8月の平均為替相場

8月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=34.76パーツで、前月の36.30パーツから4.2%のパーツ高となった。対パーツ・日本円相場は平均で1パーツ=4.21円で、前月の4.36円から3.4%の円高となった。

◆ 2024年1～7月の自動車生産台数、前年同期比17.3%減少

タイ工業連盟（FTI）によると、2024年1～7月の自動車生産台数は88万6,069台で、前年同期比17.3%減だった。内訳は乗用車が32万9,269台(同11.4%減)、商用車が55万6,800台(同20.4%減)だった。国内の新車販売台数は前年同期比23.7%減の35万4,421台。完成車輸出台数は同5.4%減の60万2,567台。輸出額は同5.8%増の4,198億7,230万バーツだった。

◆ 首相交代、ペートンタン氏が新首相に

8月16日、下院議員による後任の投票でタクシン元首相の次女のペートンタン氏が下院319票（定数493）を獲得し、新首相に選出された。タイ商工会議所会頭は新政府に対し、貿易を促進し、外国投資を誘致するためのセター政権の政策を継続するよう求めた。また日本の投資家の関心の高い電気自動車に関連する政策や、セター政権が発足直後から消費刺激策として掲げる1万パーツの電子マネーを配布する看板政策等について、ペートンタン政権が政策を引き継ぐのか現状不透明であり、状況を注視する必要がある。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8
実質GDP成長率	%	-	-	1.7	-	-	1.6	-	-	2.3	-	-
消費者物価上昇率	%	-0.3	-0.4	-0.8	-1.1	-0.8	-0.5	0.2	1.5	0.6	0.8	0.4
失業率	%	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	23,753	23,674	22,787	22,650	23,385	24,961	23,279	26,219	24,797	25,721	-
輸入額	100万ドル	24,176	25,609	21,566	25,408	23,939	26,124	24,920	25,563	24,579	27,094	-
経常収支	100万ドル	1,523	-574	2,705	181	2,096	337	-45	647	1,950	270	-
外貨準備高	10億ドル	210.9	219.1	224.5	221.6	222.4	223.4	221.1	224.3	224.3	230.6	235.7
主要政策金利	%	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	パーツ	36.5	35.4	34.9	35.2	35.9	36.0	36.8	36.6	36.7	36.2	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2024/9/30

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2024年10月号)

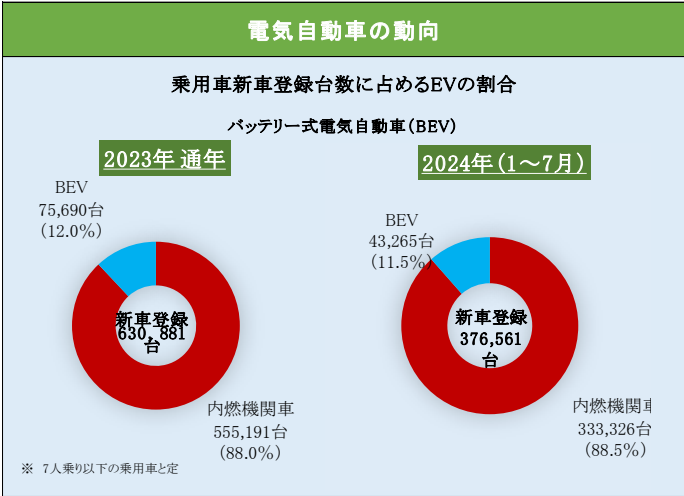
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

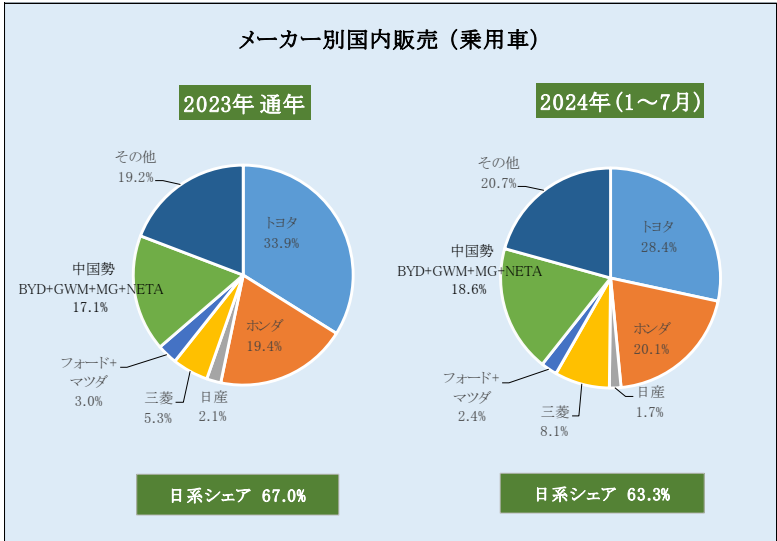
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向								
			2021年	2022年	2023年	2024年 (1～7月)	前年同期比 (%)	7月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	599,844	600,839	648,803	329,269	88.6	46,046
		商用車	1,085,861	1,282,676	1,192,883	556,800	79.6	78,783
		合計	1,685,705	1,883,515	1,841,686	886,069	82.7	124,829
	国内販売台数	乗用車	251,800	265,069	292,505	135,897	79.7	16,571
		商用車	507,319	584,319	483,275	218,524	74.3	29,823
		合計	759,119	849,388	775,780	354,421	76.3	46,394
	輸出台数		959,194	1,000,256	1,117,539	602,567	94.6	83,527
二輪	生産台数	1,780,654	2,015,940	2,120,738	1,145,520	88.3	150,947	
	国内販売台数	1,606,481	1,792,016	1,856,814	1,032,091	90.2	141,557	
	輸出台数	965,967	1,034,840	822,608	473,075	96.2	58,757	
【完成車輸出金額】 (百万バート)								
四輪			561,147	619,348	719,992	419,872	105.8	56,398
二輪			75,985	73,729	68,589	37,355	89.9	4,625

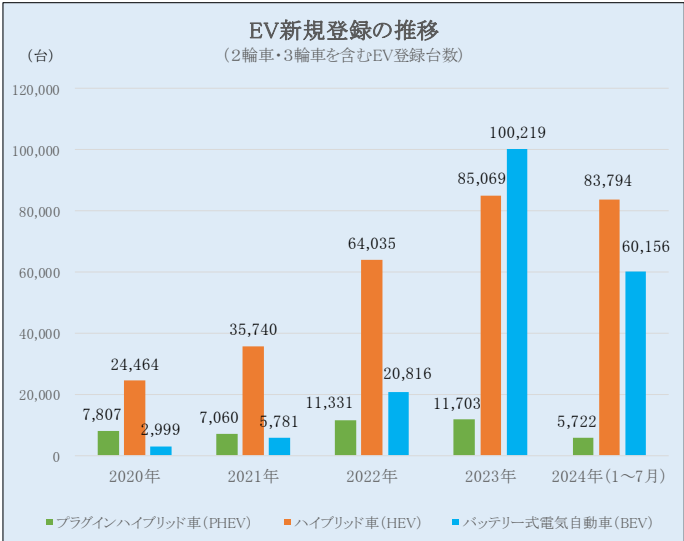
出所:タイ工業連盟 (FTI)



出所:タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所:タイ国トヨタ自動車のデータを作成



出所:タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局